

夢の舞台で真っ向勝負!

白熱の決勝大会

第16回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

2019年11月16日(土)・17日(日)の2日間、
第16回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会「決勝大会」を開催しました。
中国5県の594チームの中から予選を勝ち抜いた8チームが、
「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」をメイン会場に
熱い戦いを繰り広げました。

中国ろうきん杯 学童軟式野球選手権大会とは?

「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」という思いから、2004年より(中国ろうきん)の社会貢献活動の一環として、中国地区軟式野球連盟と(中国ろうきん)の共催で開催し、2019年で第16回目を迎えました。

参加チーム数・選手数	2018年度		2019年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	106	2,120	95	1,900
島根県	96	1,920	95	1,900
岡山県	121	2,420	119	2,380
広島県	155	3,100	158	3,160
山口県	128	2,560	127	2,540
合計	606	12,120	594	11,880



2日目 手に汗握る準決勝戦・全員野球で大接戦の決勝戦

2日目の17日(日)は準決勝戦と決勝戦の3試合が行われました。数々の試合を勝ち抜いてきた4チームの試合は接戦。山口県代表の大和軟式野球スポーツ少年団と広島県代表の中島スポーツ少年団の準決勝戦では、互いに最終回まで守り抜き、0-0のままタイブレーク方式の延長戦へ。山口県代表の大和軟式野球スポーツ少年団が好機をつかみ2-0で決勝に進出しました。

決勝戦は、島根県代表の中海少年野球団と山口県代表の大和軟式野球スポーツ少年団の対決。両チームとも打撃が繋がり、8-8の同点で5回を迎えたところで制限時間を超え、またもやタイブレーク方式による延長戦に。先攻の山口県代表の大和軟式野球スポーツ少年団が1点を先取するも、その裏の攻撃でのサヨナラタイムリーヒットで島根県代表の中海少年野球団の優勝が決定!最後まで諦めない両チームの姿に、応援席では涙も見られました。



スタンドからも全力で応援!



▲緊迫した試合運びの中、得点時の笑顔やベンチからの真剣なまなざし、チームを鼓舞するかけ声など一生懸命だからこそさまざまな表情を見せてくれました。



▲仲間を進塁させるための送りバント。 ▲悔しさをバネに、来年へのリベンジを誓います。

1日目 憧れの球場で戦える喜びを胸に最後まであきらめない全力プレーを

初日の16日(土)、爽やかな秋晴れの中、「マツダZoom-Zoomスタジアム広島」で決勝大会が幕を開けました。開会式では、本大会を支える方々から励ましの言葉をもらい、広島県代表の温品ヤングウルクラブの主将が元気よく選手宣誓を務めました。

初日は準々決勝戦を実施。憧れのプロ野球選手たちがプレーするこの球場をめざして頑張ってきた選手たちは、日頃の練習の成果を存分に発揮。毎試合、白熱した試合展開となりました。

球場全体を盛り上げる演出も!



2019年にリニューアルされた全面オーロラビジョンや、球場の周りに並ぶのぼりで球場全体は中国ろうきん杯一色!



▲(中国ろうきん)戸守理事長によるナイスピッチングな始球式で、幸先よく試合開始。

▲憧れの球場で気合充分の選手たち。優勝めざして、泥だらけになりながら全力でプレー。



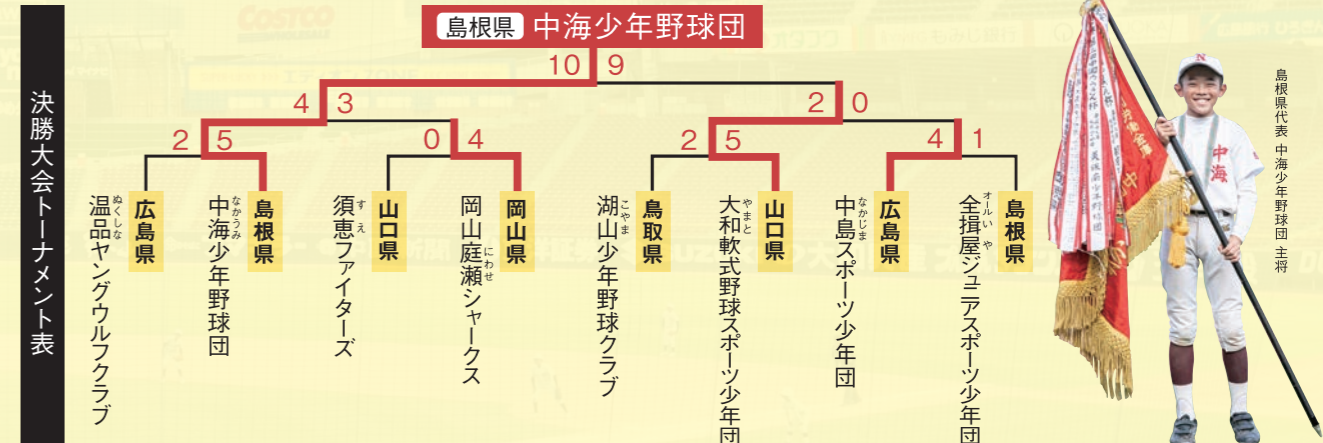
島根県代表 中海少年野球団

「気持ちの強さで勝てた」と話すのは主将の岩田くん。その言葉のとおり、試合中はベンチからの「最高!」「その調子!」という明るい励ましや笑顔が耐えず、6年生を中心に最後まで勝ちに食らいつく姿勢が印象的でした。



山口県代表 大和軟式野球スポーツ少年団

「全員野球」をモットーに、優勝チームに劣らぬ気迫を見せた大和軟式野球スポーツ少年団。学年の境を越えて、チーム一丸で戦い抜きました。



島根県代表 中海少年野球団 主将

